

令和6年度 日南市立樋原中学校 評価指標に対する努力事項

【学校経営ビジョン】 学校の教育目標具現化に向けて教職員の資質向上を図り、保護者や地域社会と連携を深めながら子どもの知・徳・体バランスのとれた成長と、将来にわたってたくましく生きていく力を育む教育活動を推進する。

重点項目	評価項目	評価指標	令和6年度 努力事項	評価				成果と課題
				生徒	保護者	教職員	委員	
こどもの学び で考える 自己実現 する	豊富な体験活動の充実	1 様々な体験活動や全教育活動を通して、自ら考え行動し理想の実現に向けて努力する力を養う。	①学校行事や地域と一緒にした活動を通して、自ら考え行動する態度を育てる。 ②ものづくり体験、植栽活動等の体験活動を通して、自主性かつ創造性を身に付けさせる。 ③自律の時間を教育課程に位置づけ、学習面における自主・自律の態度を育成する。	3.9	3.3	3.1	3.3	○自律の時間については、ずいぶん整理され、やり方も工夫できたと思う。 ●体験活動等においては、自主・自律の態度を高めるため教員は手を掛けすぎず、時には任せ、見守ることが大切である。
			①運動会や学習発表会など各行事を通して、他者と協力することの大切さを気付かせる。 ②生徒会の各活動を通して話し合い活動を行うことで、他者と合意形成する力を身に付けさせる。	3.8	3.3		3.3	○話し合い活動において、合意形成する力が身についてきたのではないか。 ●校外の奉仕活動については、もう少し機会を増やしてもよいのではないか。
			③校内外の奉仕活動を通して、社会に奉仕する姿勢を身に付けさせる。	3.4	3.2			
	豊かな人間性の育成	2 各種学校行事やボランティア活動などを通して他者と協力するとともに、よりよい生活に向けて努力する力を養う。	①「ひなたの学び」を意識し、確かな学力の定着を図るための授業改善を全職員で行う。 ②定期テストにおける出題方法を工夫したり、新聞を活用したりして読解力の向上を図る。 ③深める時間や確かめる時間に各種調査の過去問を活用することで、多様な出題形式に触れさせ、思考力・表現力の向上を図る。 ④全教育活動を通して、生徒それぞれに成功体験を味わわせ、自信をつけさせることで学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ意欲を高める。	3.5	3.0	3.3	3.3	○「ひなたの学び」を意識した研究授業参観を行うことができ、お互いに参考になった。 ○よむYOMUタイムのやり方が改善され、充実してきている。 ●過去問の活用については、今後も検討していく必要がある。
			①配慮を要する生徒について、全職員で共通理解し、困り感のある生徒への個別的な学習の場の設定と適切な指導・助言を行う。 ②ICT機器を最大限に活用しながら、個別最適な学びの充実が図られた授業を実践する。					○学力を高めるために有効なICTの活用がなされている。 ●今後、Googleの研修をしていく必要がある。
	新しい研修制度の充実	5 新たな教師の学びの姿を実現する校内研修やOJTを活性化する。	①ライフステージに応じた研修を受講することでそれが研鑽を積み、生徒に還元する。 ②OJTを活かして校内研修に取り組み、各自の授業力の向上を図る。			3.4	3.4	○積極的に研修に参加し、生徒に還元できるよう努めている。 ●職員の研修を保護者にももっとアピールできるといい。

健やかな心と体の育成	体育的行事や食育を通した体力の向上	6	体育的行事や食育の充実を図り、健康の保持増進とたくましさを培う。	<p>①体育的行事や体育の授業において、アダプテッドスポーツを取り入れ、運動を楽しんだり、親しんだりする機会を設け、生徒の運動習慣の定着や体力の向上を図る。</p> <p>②日頃の給食指導を基本として、栄養教諭とも連携して食育活動を行い、食事のマナーや知識を学ぶとともに、食への関心を高める。</p>	3.5	3.4	3.6	3.4	<p>○給食時間の放送や食育の授業等、食への関心を高めることができた。</p> <p>●運動を苦手とする生徒への対応を、今後も検討する必要がある。</p>
	教育相談の充実や道徳教育・人権教育・性教育・安全教育の推進	7	安全指導や防災教育、教育相談、性教育を通して生命の尊さ、人権感覚の向上を図る。	<p>①交通教室や避難訓練、防災教育等を実施し、安全への意識の高揚を図る。</p> <p>②教育相談の時間を各学期1回、各2時間確保して全校生徒を対象に確実に実施し、生徒の健やかな成長に寄与する。</p> <p>③学級担任と養護教諭とが連携して各学期1回の性に関する教育の授業を行う。</p>	3.9	3.3	3.9	3.4	
小中一貫教育や地域との連携した	9年間の系統的な総合的な学習の時間の充実	8	小中合同研やふるさと学習をとおしてキャリア教育の充実を図る。	<p>①小中合同の研修会や学校行事の実践を通して、小中の連携を図る。</p> <p>②各学年の「総合的な学習の時間」のテーマに沿った体験活動を通して、自分の将来に向けての考えを深めさせる。</p> <p>③キャリア通信の発行により、キャリア教育に対する保護者への啓発を図るとともに、キャリアコーナー「道しるべ」の充実により生徒の関心を高める。</p> <p>④学校行事等の取組をキャリアパスポートに足跡として残し、適切なキャリア形成に役立てる。</p>	3.8	3.3	3.0	3.3	<p>○小中合同で研修したり、キャリアパスポートの活用を行ったりすることができた。</p> <p>●小中合同の行事等については系統性を意識し、授業の参観についても実施の在り方について検討していく必要がある。</p>
	地域行事への積極的参画	9	通信等を活用し積極的に情報発信をするとともに、コミュニティースクールの推進を図る	<p>①学校支援地域コーディネーターに協力を依頼し、地域の人材を活用した教育活動を実施する。</p> <p>②学校だよりやホームページを定期的に更新したり、プレスリリースに努めたりして、学校の取組や生徒の活動を保護者や地域に発信する。</p> <p>③榎原中安心メールを利用して、各家庭に緊急時の対応などの連絡を行う。</p>		3.5			
					3.4	3.7			